



階段

基本的な考え方

階段は、建築物内の垂直方向の移動手段の一つであり、杖使用者や高齢者等が昇降を行う際の負担を軽減するよう配慮するとともに、安全に対する配慮を行うことが必要です。

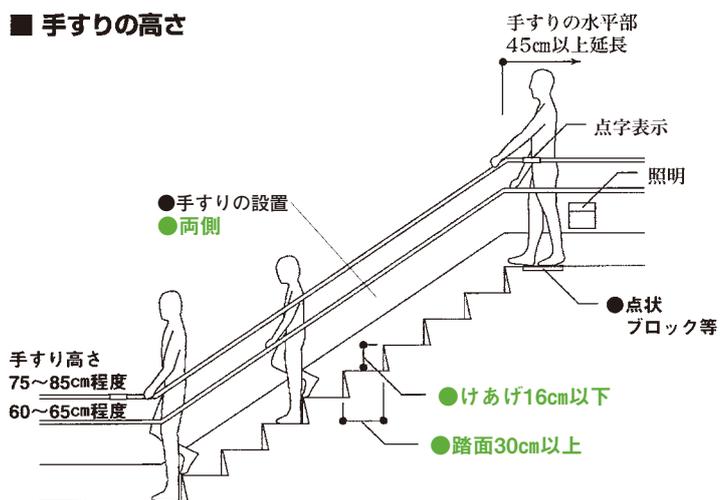
| 整備項目 | 整備基準 | より望ましい基準 |
|--|---|------------------|
| 多数の者が利用し、直接地上へ通ずる出入口がない階に通ずる主たる階段(踊場を含む) | ●有効幅 <u>定め</u> ない | ●140cm以上 |
| | ●けあげの寸法 <u>定め</u> ない | ●16cm以下 |
| | ●踏面の寸法 <u>定め</u> ない | ●30cm以上 |
| | ●手すりの設置 | ●両側に設置 |
| | ●回り階段を設けない構造 (構造上困難な場合はこの限りでない) | ●()内、緩和事項は適用しない |
| | ●粗面又は滑りにくい材料による表面仕上げ | |
| | ●識別しやすい明度、色相又は彩度差等かつ、つまずきにくい構造の段 | |
| | ●側面が壁でない場合の立ち上がりの設置 | |
| | ●段鼻の突き出し等のつまずきの原因を設けない構造 | |
| | ●上端に近接する踊場の部分(多数の者又は主として視覚障害者が利用するものに限る)への点状ブロック等の敷設、ただし以下の部分、各施設はこの限りでない ・段がある部分と連続して手すりを設けた場合 ・学校等及び工場並びに共同住宅等の共用部分、自動車の駐車のに供する施設 | |

解説

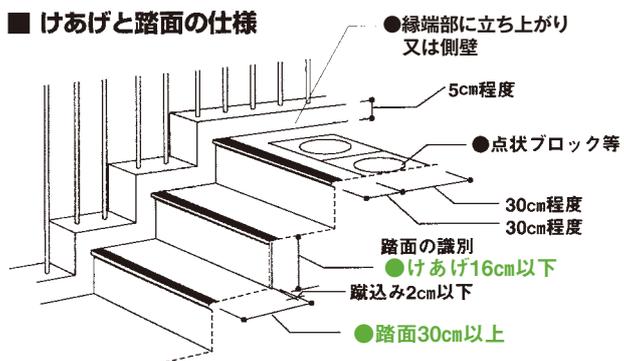
- 整備基準中「建築物の構造上、回り階段を設けない構造とすることが困難な場合」には、小規模な2階建ての物販店舗等で、当該階段以外に階段を設けられず、スペースの関係上回り階段を設けざるを得ないような場合などが該当する。
- より望ましい基準における140cm以上の有効幅は、松葉杖利用者が円滑に上下できるようにするための寸法である。
- 踏面、蹴上げは、次の計算式を満たす寸法とすることが望ましい。
 $55\text{cm} \leq T + 2R \leq 65\text{cm}$ (T:踏面 R:蹴上げ)

●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 手すりの高さ

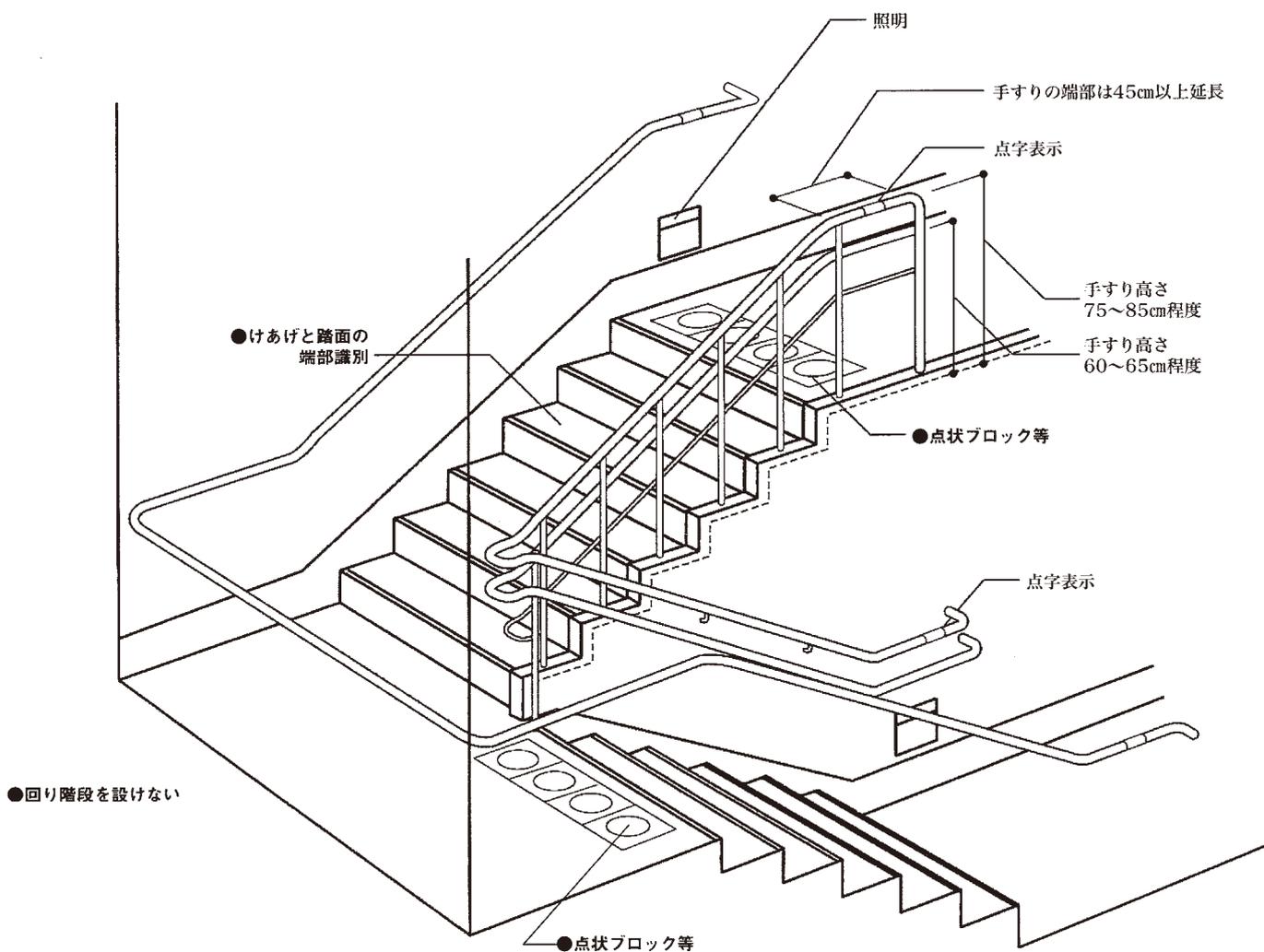


■ けあげと踏面の仕様



■ 階段

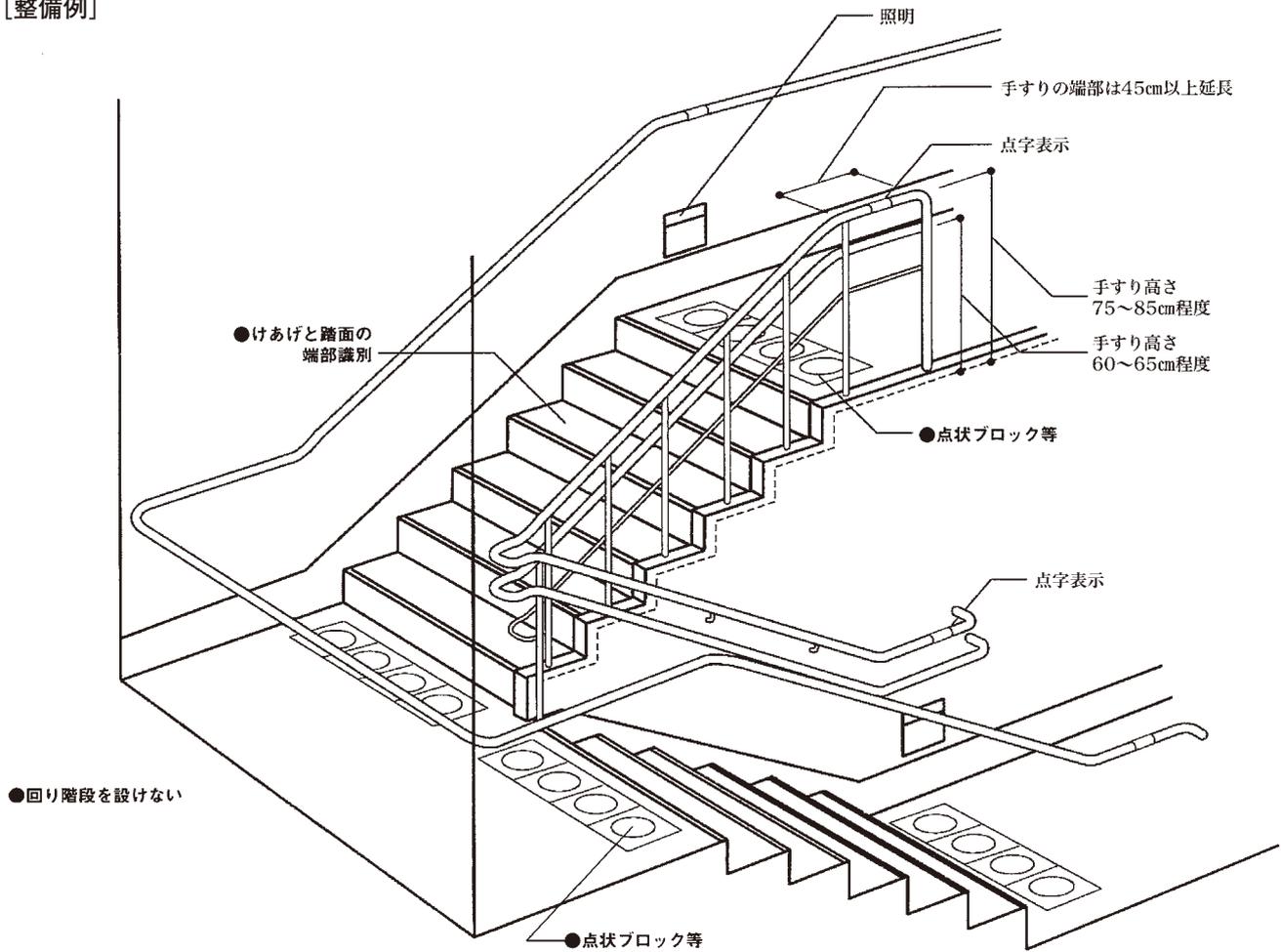
[●整備基準]



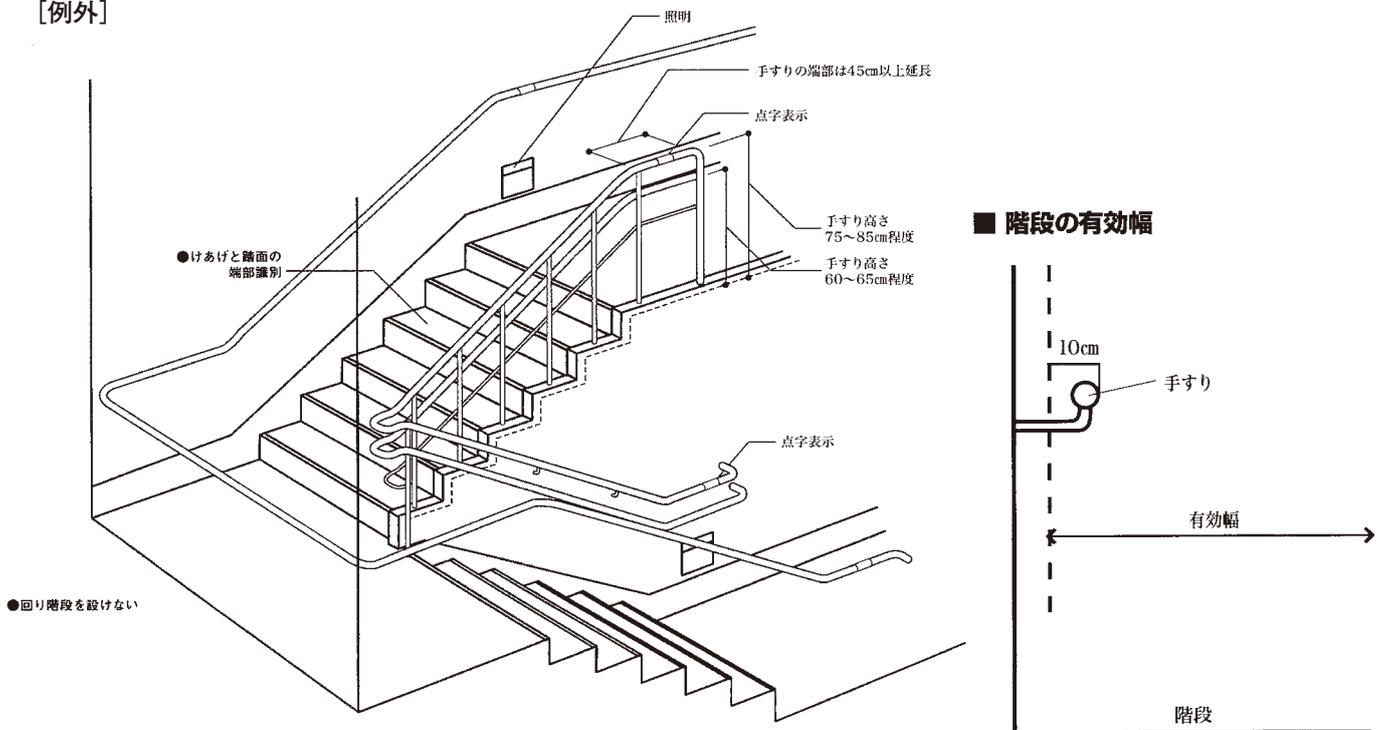
I-5 階段

●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

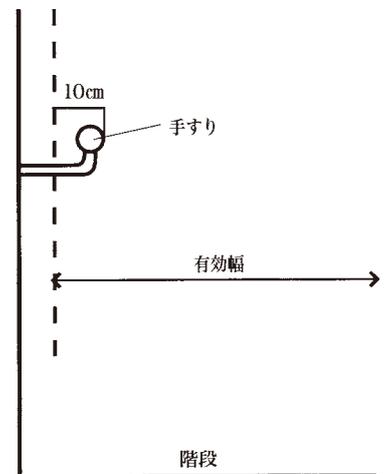
[整備例]



[例外]

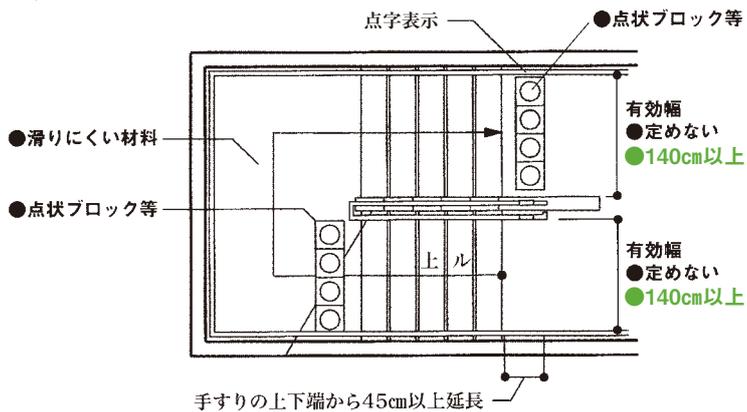


■ 階段の有効幅

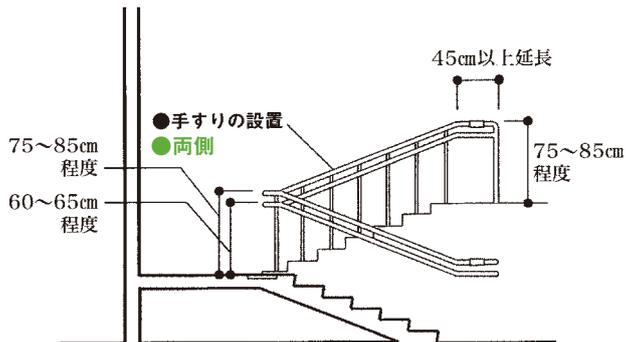


●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 階段平面

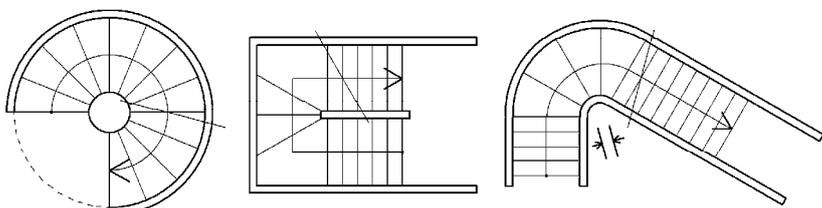
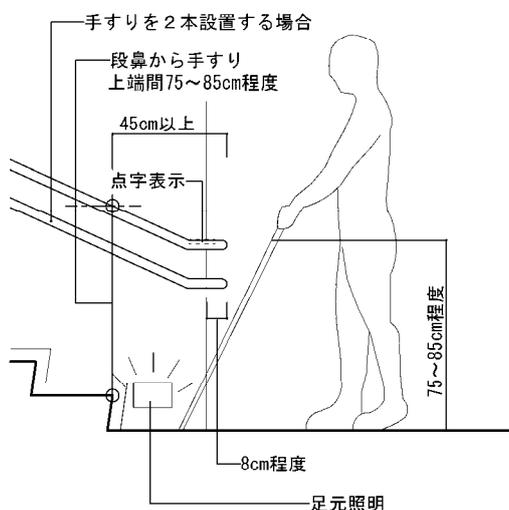


■ 階段断面



■ 階段の手すり*

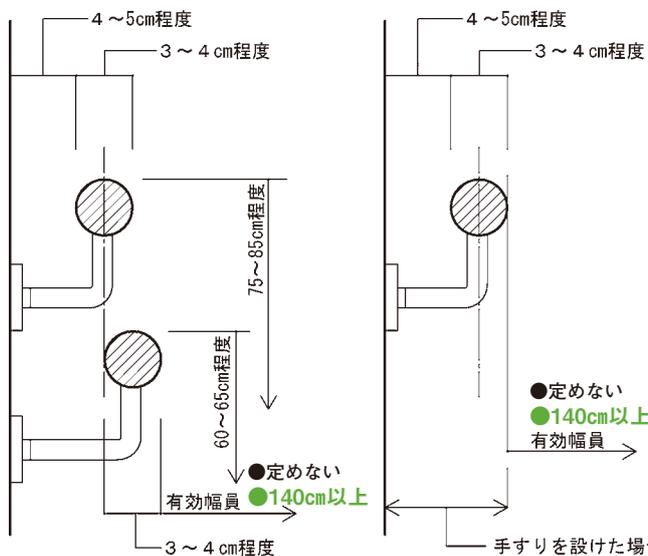
■ 回り階段の例 (●原則設けない)



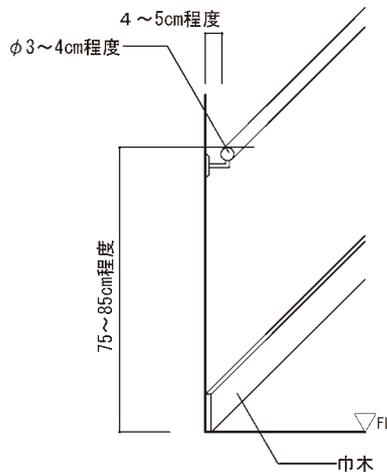
「回り階段」は、らせん階段や踊場部分に段を設けた階段のことである。

■ 手すり*

手すりと有効幅員



壁面の設置例



(※出典：「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」国土交通省)



階段に代わり又は併設する傾斜路

基本的な考え方▶

車いす使用者が自力で傾斜路を登坂するには、相当の体力を必要とします。又、下降の際にも腕にかかる負担も大きく、勾配はできるだけ緩くする必要があります。

| 整備項目 | 整備基準 | より望ましい基準 |
|-----------------|---|--|
| 多数の者が利用する傾斜路 | <ul style="list-style-type: none"> ●有効幅を<u>定め</u>ない ●勾配が $1/12$ を超え、又は高さが 16cm を超える部分には手すりを設置 ●粗面又は滑りにくい材料で仕上げる ●近接する踊場、廊下等の色と明度、色相又は彩度の差の大きい色とすること等により、傾斜路の存在を容易に識別できること ●傾斜がある部分の上端に近接する踊場の部分(多数の者又は主として視覚障害者が利用するものに限る。ただし、学校等及び工場並びに共同住宅等の共用部分は除く)には、点状ブロック等を敷設すること。ただし、当該部分が次のいずれかに該当するものである場合には、この限りでない <ol style="list-style-type: none"> 1. 勾配が $1/20$ を超えない傾斜がある部分の上端に踊場が近接するもの^(※) 2. 高さが 16cm を超えず、かつ、勾配が $1/12$ を超えない傾斜がある部分の上端に踊場が近接するもの^(※) 3. 主として自動車の駐車のために供する施設に設けるもの 4. 傾斜がある部分と連続して手すりを設けるもの ^(※) 40ページ参照 | <ul style="list-style-type: none"> ●有効幅は階段に代わるものは 150cm 以上、階段を併設するものは 120cm 以上 ●勾配は $1/12$ 以下 ●高さが 16cm を超える部分には両側に手すりを設置 ●幅、勾配、踊場の規定は、車いす使用者用駐車施設が設けられていない駐車場又は階段等のみに通じる傾斜路の部分には、適用しない。勾配が $1/12$ を超える傾斜がある部分には、両側に手すりを設置 |
| 利用円滑化経路を構成する傾斜路 | <p>利用円滑化経路を構成する傾斜路は上記のほか、次の定める構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有効幅は階段に代わるものは 120cm 以上、階段に併設するものは 90cm 以上 ●勾配は $1/12$ を超えないこと。ただし、高さが 16cm 以下の場合には $1/8$ を超えないこと ●高さが 75cm を超えるものは、75cm 以内ごとに踏幅 150cm 以上の踊場を設置 ●側壁のない傾斜路には両側に 5cm 以上の立ち上がりの設置 | |

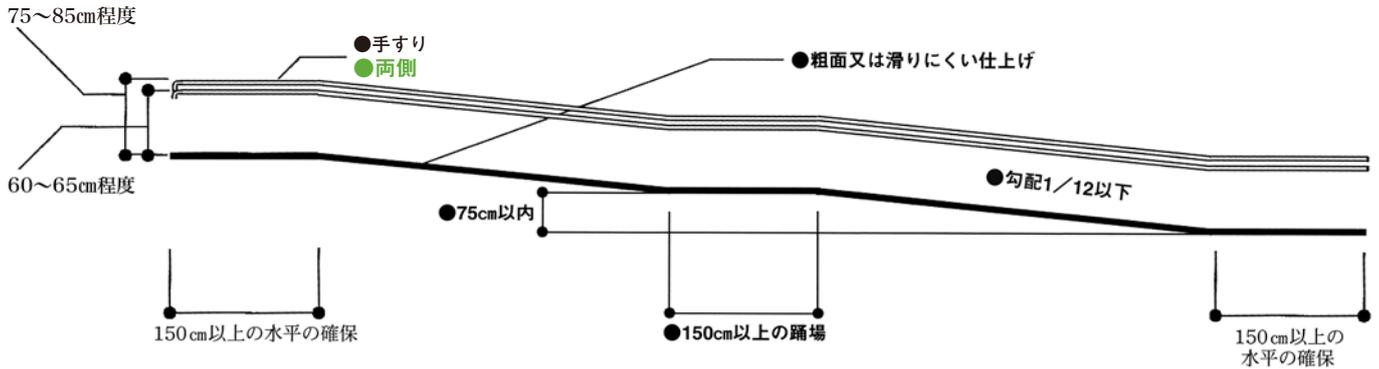
解説

- 車いす使用者が自力で登坂できる勾配は、 $1/12$ 以下である。
- $1/10$ の勾配は、自力で通過するのは困難である。
- $1/12$ の勾配は、国際シンボルマークの設置基準である。

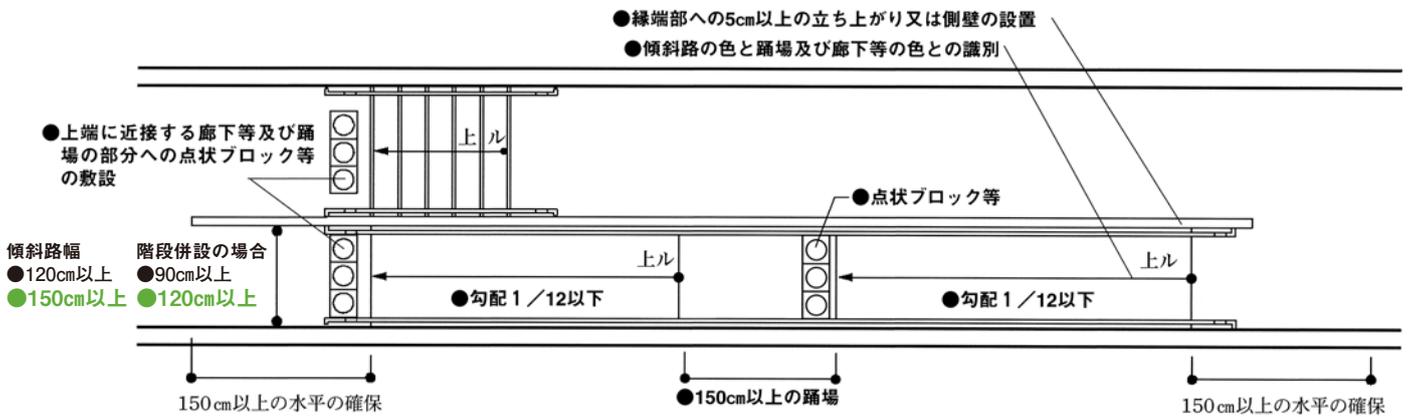
●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

利用円滑化経路を構成する傾斜路

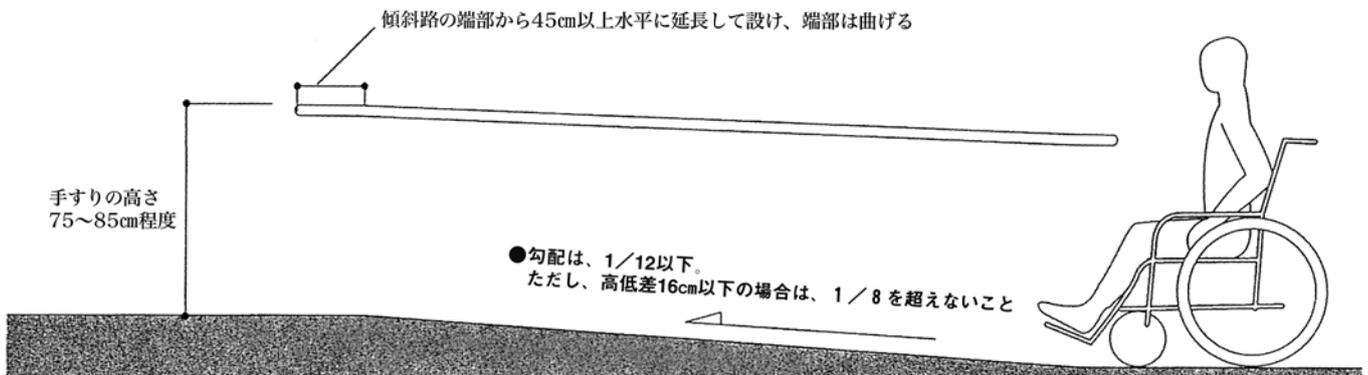
■ 傾斜路の断面



■ 階段と傾斜路の平面



■ 傾斜路の勾配





便 所

基本的な
考え方▶

障害者、高齢者等が積極的に社会参加ができるような環境を整備するためには、車いす使用者等が利用できる便所を設置することが必要です。その際、車いす使用者等の利用に配慮するとともに、一般の便所と一体的に設けることなどにより、車いす使用者だけでなく、乳幼児連れの人などだれもが気軽に利用できる便所にすることが大切です。

| 整備項目 | 整備基準 | より望ましい基準 |
|---|---|--|
| <p>多数の者が利用する便所 (共同住宅等の共用部分についてはこの限りでない)</p> <p>施設利用者用の便所に男子用小便器を設ける場合(共同住宅等の共用部分についてはこの限りでない)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●車いす使用者用便所の設置 (十分な空間の確保) ●設置数 1以上 (男子用及び女子用の区分があるときはそれぞれ1以上) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆車いす使用者用便所の構造◆</p> <ul style="list-style-type: none"> *便房及び便所の出入口の有効幅は、それぞれ80cm以上 *自動的に開閉する構造その他の車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造の便房及び便所の出入口の戸 *便房及び便所の出入口における車いす使用者が通過する際に支障となる段を設けない構造 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●床は濡れても滑りにくい材料による表面仕上げ ●車いす使用者等の利用に配慮した水洗器具の設置 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆車いす使用者等の利用に配慮した水洗器具の構造◆</p> <ul style="list-style-type: none"> *車いす使用者の利用に配慮した高さ *車いす使用者の利用しやすい下部空間の設置 *両側への手すり又はこれに類するものの設置 *操作が容易な水栓器具 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●便所出入口付近における車いす使用者用便房を設置している旨の見やすい表示 ●両側に手すりのある床置き又は壁掛式(受け口の高さが35cm以下のものに限る)男子用小便器その他これに類する小便器の設置 <p>設置数 男子用小便器を設ける便所1か所ごとに、1以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●各階において、多数の者が利用する便房の総数が200以下の場合はその階に1/50以上の設置、又、200を超える場合はその階に1/100+2以上の設置 ●多数の者が利用する便所に車いす使用者用便房が設けられておらず、かつ、当該便所に近接する位置に車いす使用者用便房が設けられていない場合には、当該便所内に腰掛便座及び手すりの設けられた便房を1以上設けること |

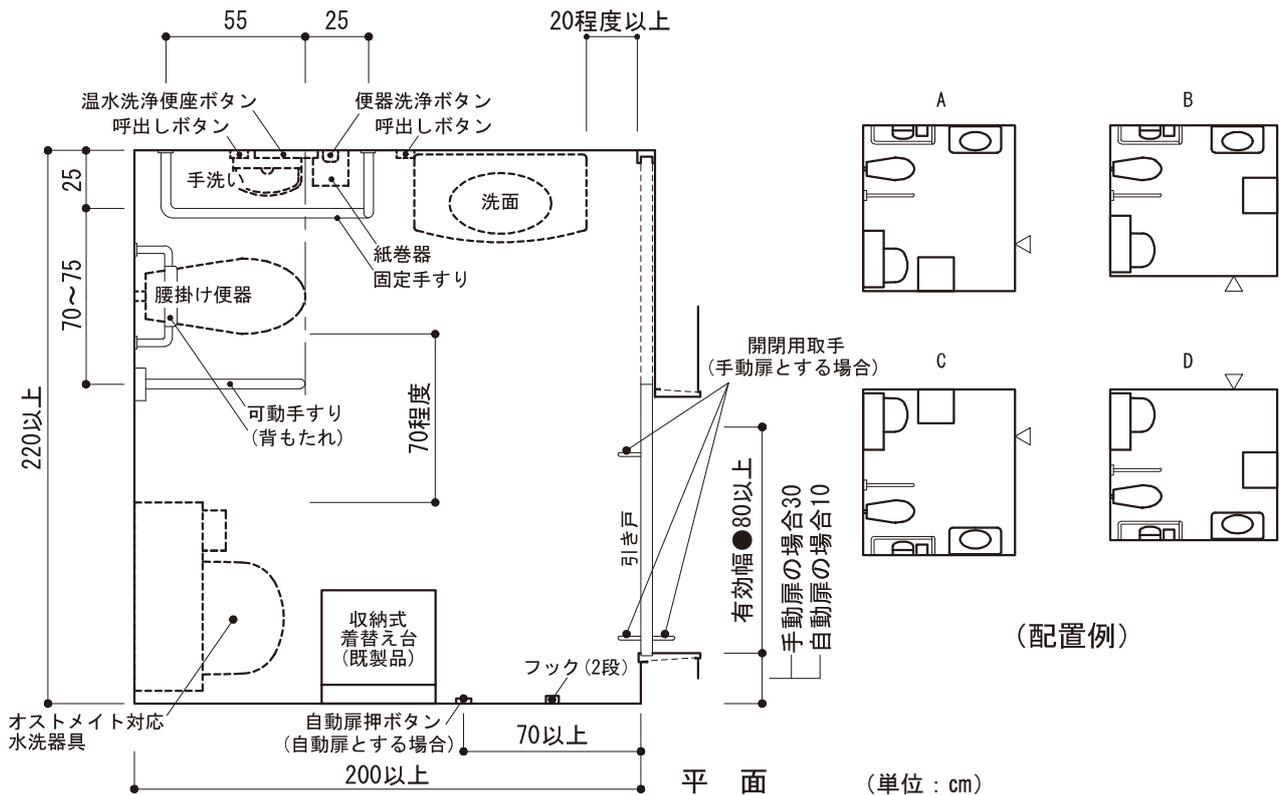
| 整備項目 | 整備基準 | より望ましい基準 |
|---------------|--|---|
| 乳幼児用いす | <p>2,000㎡以上の公共性の高い建物に設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 以上設置 (男子用及び女子用の区別がある場合はそれぞれ 1 以上) ● 乳幼児用いすの設置 ● 便房及び便所の出入口にその旨の表示 | <p>多数の者が利用する建築物に設置 (学校等、工場、共同住宅等の共用部分を除く)</p> |
| 乳幼児用ベッド | <ul style="list-style-type: none"> ● 乳幼児用ベッドの設置 (便所以外の場所に設ける場合を除く) ● 便房及び便所の出入口にその旨の表示 | |
| オストメイト対応便房の設置 | <p>2,000㎡以上の公共性の高い建物に設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 以上設置 (男子用及び女子用の区別がある場合はそれぞれ 1 以上) ● オストメイト対応の洗浄装置付汚物流し ● 給湯設備 ● 2 以上の衣服を掛けるための金具 ● 立位で上半身程度を映せる鏡 ● 衣服や器具を置くことのできる移動台または洗面カウンター ● その他オストメイトに対応した設備 ● 便房及び便所の出入口にその旨の表示 | <p>多数の者が利用する便所に設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 該当便房が設けられている階ごとに 1 以上設置 |

| 整備項目 | 整 備 基 準 | より望ましい基準 |
|------------|---|----------|
| | | |
| <p>解 説</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 便所に関する基準は、多数の者の利用に供する便所を設ける場合に適用され、従業員用の便所のみを設けている場合などには適用されない。 ● 基準上明記はしていないものの、建築物のどの位置にどのような便所、便房が設けられているかについて、適切に情報提供が行われることが重要である。 ● 車いす使用者用便房は出入口と便座の位置関係等により様々な平面計画があり得ることから、「車いす使用者が円滑に利用することができるよう十分な床面積が確保され、かつ、腰掛便座、手すり等が適切に配置されている便房」と規定し、便房の幅、奥行き等の寸法については定めていない。 ● 車いす使用者用便房の出入口及び当該便房のある便所の出入口の有効幅80cm（整備基準）は車いすが通過できる寸法である。 ● 車いす使用者用便房は、一般用便所の内部又はそれに隣接して設けられることが望ましい。しかし、同一階に複数の便所があり、車いす使用者用便房を含む（又は車いす使用者用便房に隣接する）便所以外の便所を設けざるを得ないときは、当該便所には、障害者、高齢者等の屈んだり立ったりすることが困難な者用に腰掛便座及び手すりのある便房を設けることが望ましい。このため、より望ましい基準では、「多数の者が利用する便所に車いす使用者用便房が設けられておらず、かつ、当該便所に近接する位置に車いす使用者用便房が設けられている便所が設けられていない場合には、当該便所内に腰掛便座及び手すりの設けられた便所を1以上設けること。」と規定している。 ● 乳幼児を連れた方の利用に配慮し、便房内に乳幼児用いすの設置を求めるほか、便所内には、おむつ替えに利用できる乳幼児用ベッドの設置を求めるものである。なお、男子用、女子用の区別がある便所には、それぞれに設置することになっている。 ● オストメイト対応便房とは、オストメイト（人工肛門、人工ぼうこうの造設者）が便等を処理し、パウチ等の洗浄、装着等を行うため、トイレ内部に汚物流し、衣服類を掛けるための金具などの設置を設けた便房のことである。 | |

I-7 便所

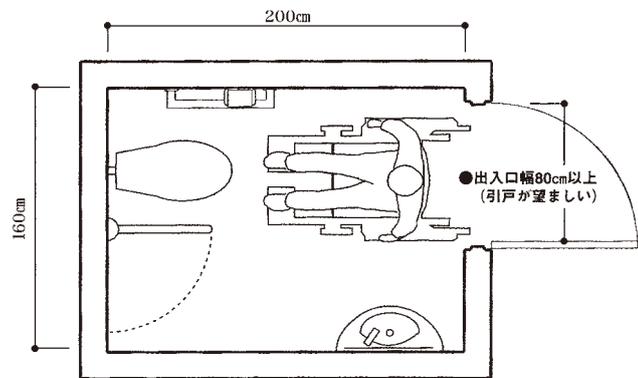
●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 多機能便房(オストメイト用設備)

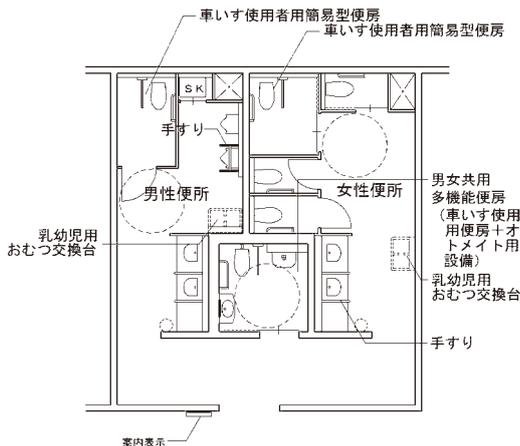


(出典:「建築工事標準詳細図平成28年版」国土交通省(一部加工して使用))

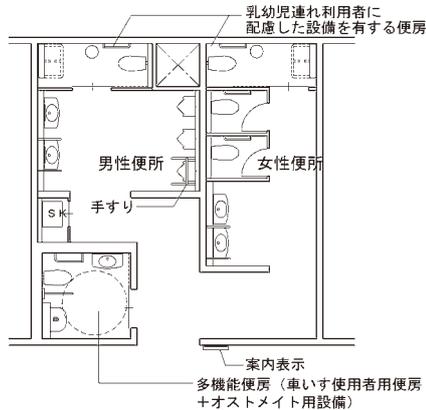
■ 建築設計上制限がある場合の車いす使用者用便房



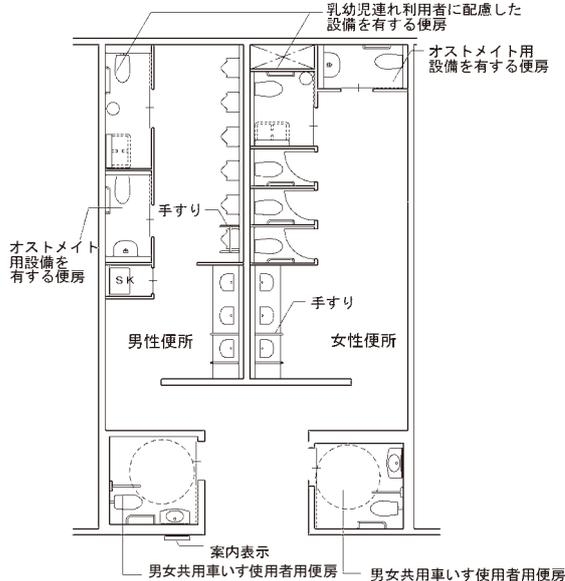
■ 便所・洗面所の例2*



■ 便所・洗面所の例1*



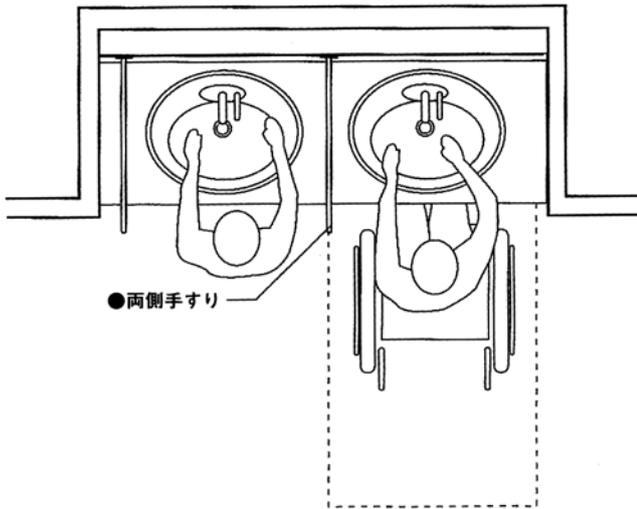
■ 便所・洗面所の例3*



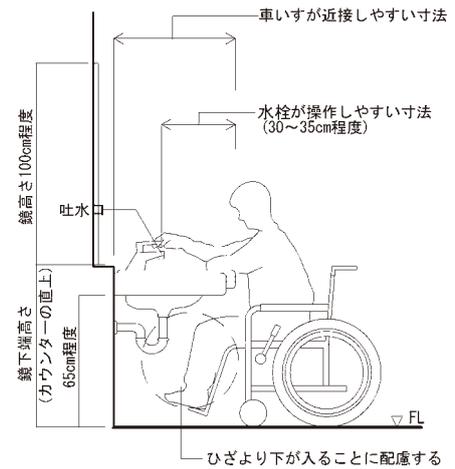
(※出典:「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」国土交通省(一部加工して使用))

●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 車いす使用者等の利用しやすいスペースを確保した洗面所

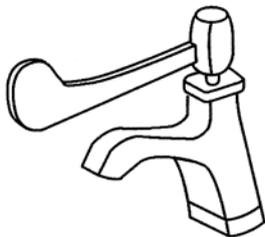


■ 車いす使用者が利用しやすい洗面化粧台※1



(※1 出典：「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」国土交通省(一部加工して使用))

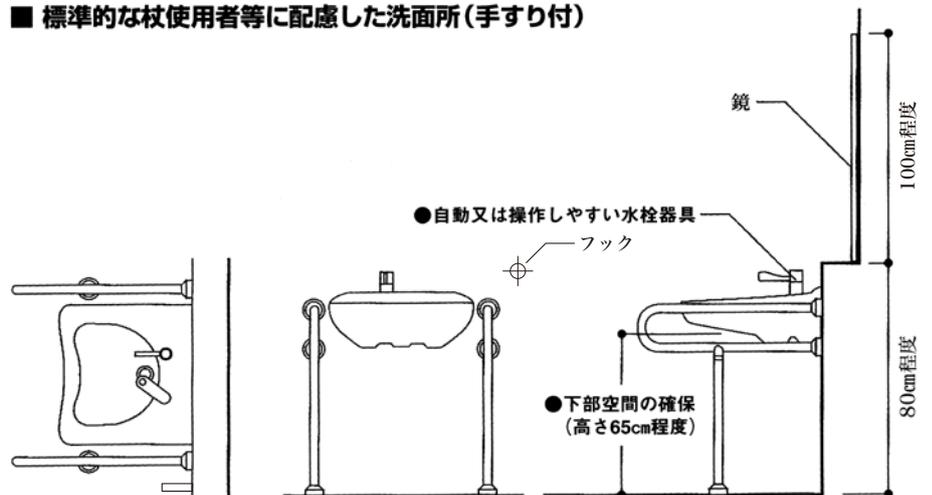
■ レバー式水栓器具



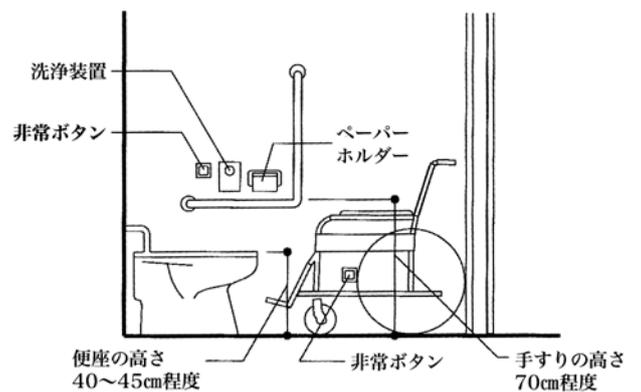
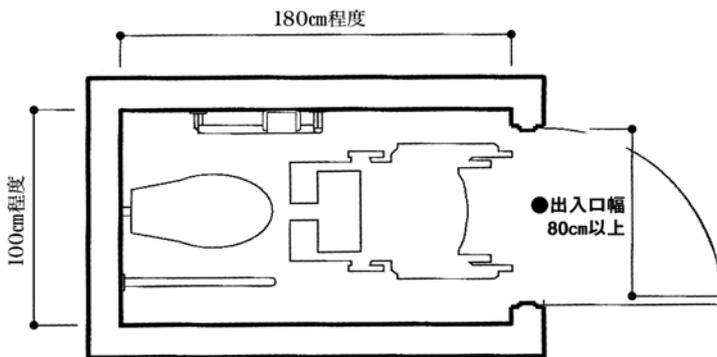
■ 自動水栓器具



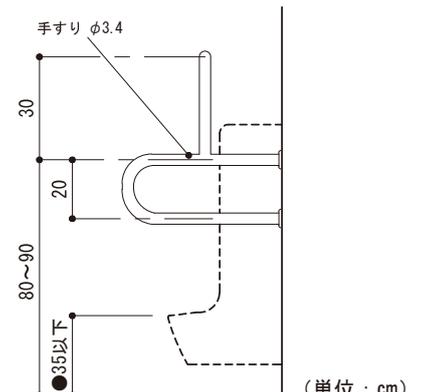
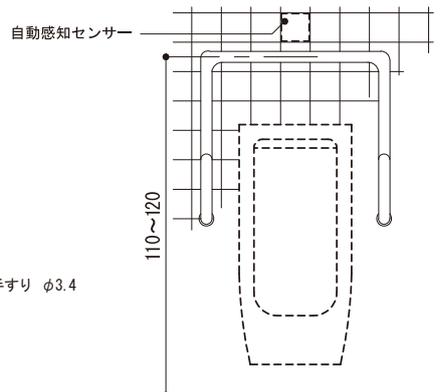
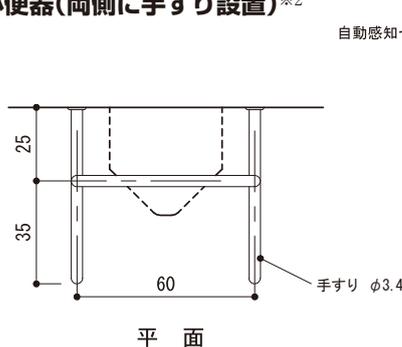
■ 標準的な杖使用者等に配慮した洗面所(手すり付)



■ 車いす使用者用便所に準ずる便所



■ 男子用小便器(両側に手すり設置)※2

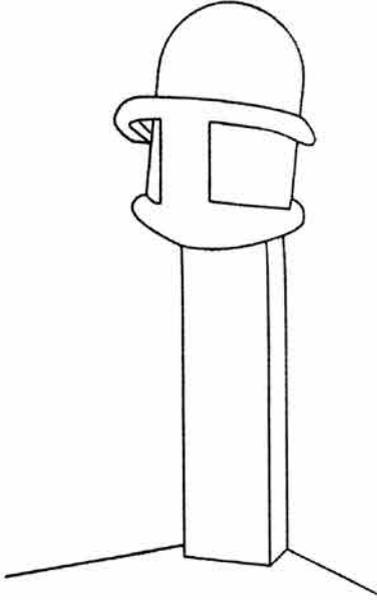


(※2 出典：「建築工事標準詳細図平成28年版」国土交通省(一部加工して使用))

立面

側面

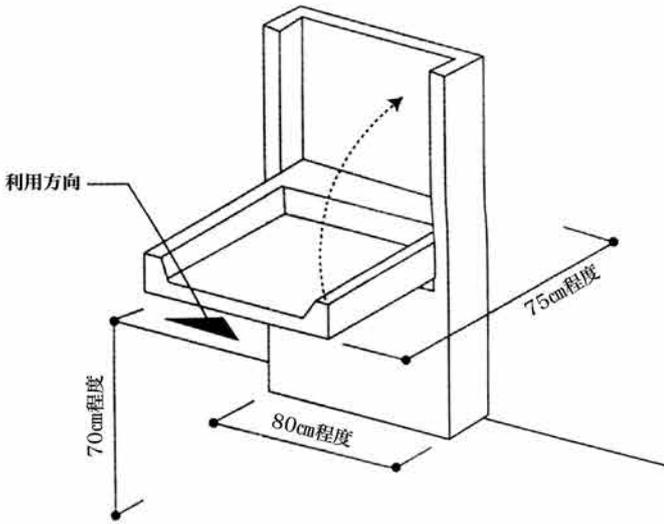
■ 乳幼児用いす(生後5ヶ月～2歳半程度)



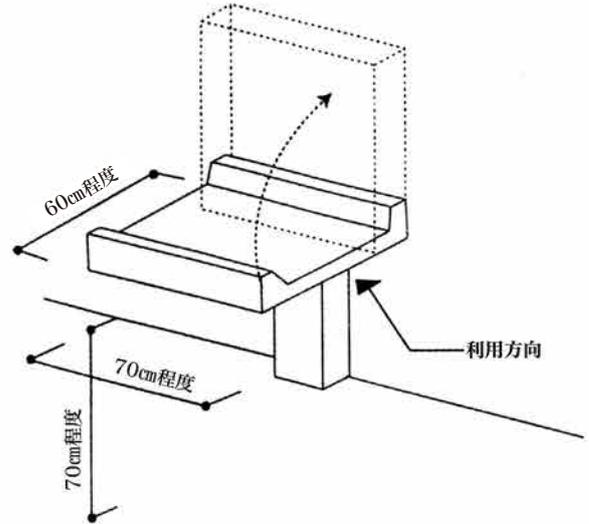
ベビーチェア表示の例

■ 乳幼児用ベッド

壁・床取付乳幼児用ベッド(生後1ヶ月～2歳半程度)



壁取付乳幼児用ベッド(生後1ヶ月～2歳半程度)



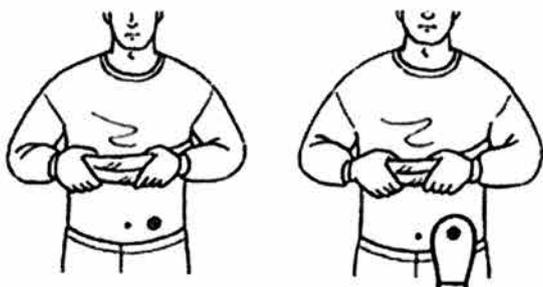
ベビーシート表示の例

■ オストメイト対応トイレ設備の例



は、オストメイト表示

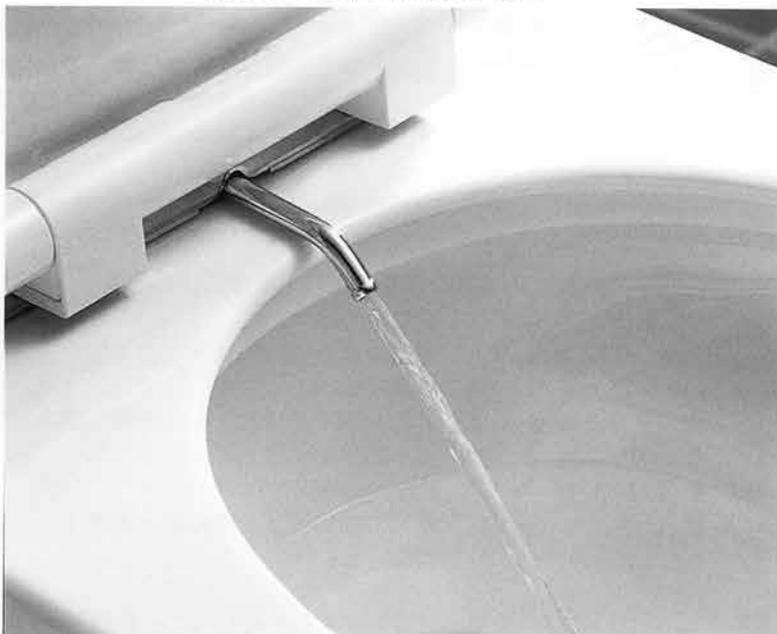
■ パウチの例



ストーマとは…便を体外に出すために腹部に設けた人工の排泄口。

パウチの装着例

■ パウチ・しびん洗浄水栓(便器に後付けタイプ)



■ 電気温水器・点検口開口・ライニング



電気温水器



■ フック



荷物を掛けるのに便利です

■ タッチスイッチ



■ オストメイト対応設備の例

